

北新地駅(JR東西線)

「曾根崎心中・道行の道」から「米市場跡」へ

大阪駅(JR環状線ほか各線) 梅田駅(阪急各線・阪神本線・地下鉄御堂筋線)
東梅田駅(地下鉄谷町線) 西梅田駅(地下鉄四つ橋線)

「大阪あそ歩マップ集」
その1 No.011



JR北新地駅

平成9年(1997)に尼崎と京橋を結んでJR東西線が開業したときにできた駅です。計画段階では桜橋駅が予定されていましたが、地元の要望で北新地駅となりました。北新地とは、元禄のころに堂島新地、曾根崎新地として新しく造成された土地で、以来300年以上、大阪を代表する遊興地として栄えてきました。北新地駅から国道2号線(曾根崎線)を渡った南側一帯、堂島川までが現在の北新地で、約3000軒のクラブ、バー、飲食店などが密集しています。

① 桜橋跡碑

新地本通りに沿って流れていた蜷川(曾根崎川)は明治42年(1909)のキタの大火の後に瓦礫で埋め立てられました。蜷川にはここに桜橋が架かっていました。現在は交差点の名前で伝えられています。西側に緑橋、東側に曾根崎橋が架かっていました。

② 堂島薬師堂

聖徳太子のころからここに薬師如来の堂があり、それが堂島の由来だということです。堂島アバンザの建設のときに127枚のミラーガラスを組み合わせて新しいお堂ができました。

③ 堂島米市場跡

堂島新地が開発された後、元禄10年(1697)に中之島の米市場が堂島に移されて、日本の米相場がここで決定されました。世界で初めて先物取引をおこなった市場として評価されています。周辺には各藩の蔵屋敷が立ち並び、日本経済の中心地として栄えました。明治2年(1869)に米

● 売買が禁止され、その後、蔵屋敷も国有地になりました。

④ 新地本通(蜷川跡・河庄跡)

● 蜷川の北側に沿っていまの新地本通の道がありました。曾根崎村の近くに開発された曾根崎新地です。本通りの中ごろに、近松門左衛門の最高傑作『心中天の網島』に登場し、遊女・小春と紙屋治兵衛が逢瀬を重ねた茶屋・河庄の碑と、蜷川の碑が並んで建っています。

⑤ 蜷橋跡

● 御堂筋と堂島上通りの角に、蜷川に架かっていた蜷橋跡の文字が建物の下部に刻まれています。



⑥ 露天神社(お初天神)

● 近松門左衛門の『曾根崎心中』に描かれたお初・徳兵衛の心中は、この神社の森で果たされました。● 神社の起源は6、7世紀に遡りますが、菅原道真が左遷されますが、菅原道真が左遷される時に当地で詠んだ「露と散る涙は袖に朽ちにけり 都のことを思いいづれば」が社名の由来です。



JR北新地駅

